

郵船會社の元東洋汽船船員に對する採用態度で可成り世間の注目をひいた。組合も兩會社の船員が殆んど全部組合員である關係上極めて重大視し、今春來濱田副組合長代理は屢々上横して堀内支部長以下同地常務部員と共に兩社の間に管旋し同満なる解決を爲すべく努力せる結果、郵船會社當局は合併の爲め下船せる東洋汽船船員に對し極めて好意ある態度を示し、日本郵船會社側の許す範囲内に於て可及的多數下船者を採用すべしと聲明せる一方、東洋汽船會社も船權者其他に對し極力諒解を遂げ有ゆる上面をして、に參拾五萬圓の解雇手當を捻出し、最低約百圓最高約千參百圓を下船普通海員に支給する事となつた。此解雇手當は其分配率に於て勤続者老年者に厚く、少からざるものに薄く、其趣旨は妥當であつたがその額は過少であるをなし最初組合は強硬に反對したのであるが、會社の實狀は全くこれ以上の手當を支出する實力なき事が判明したから、これにて我慢するやう下船者にも説明し、三月四日の横濱入港の第一船天洋丸を始め、津洋丸、安洋丸、三洋丸等皆無事平穩裡に引渡しを完了した。

濱田副長代理は其引渡しの都度上横し下船船員の爲めに眞に獸身的に盡力するところがあつた。

今後の入港船は四月二日春洋丸、四月十五日サイベリア丸、同二十五日には豊洋丸、同二十九日には太洋丸、六月十五日には樂洋丸の順席である。

對外的事項

(一) 海員ホーム及港内通船改善提議

大正十四年度組合大會の決議に基づき詳細なる願書を作製し神戸、大阪、名古屋、小樽、函館、門司、戸畑各出張所の所轄

道府縣及び市當局並に市會議長に發送し、出張所々所在地に在りては直接持參其の實現の緊急なる所以を力説せり。

(二) 日本海員救濟會病院特別待遇の件

從來日本海員救濟會病院は同會より紹介したる船員に對しては、特に船主負擔義務期限終了後に一箇月間同會の費用にて手術、治療、投藥を爲す規定あり。組合は之れに對し此の規定を同會より紹介せざる一般船員にまで擴張されたい旨同會幹部に交渉せる結果、同會は近く右に關する救濟規定を改正して組合の希望に副ふ意圖を有する旨同會理事長塚原周造氏より回答ありたり。

(三) 日活映畫「波荒き日」上映反對運動

東本願寺法嗣(現在法主)大谷光暢師の原作にかゝり日本活動寫眞株式會社が撮影上映せんせせる映畫「波荒き日」は船員の阿片密輸入、船内紀律違反、上長に反抗、殺人、飲酒等の悪行醜態を題材せるものなりこの事新聞記事にて發表せられたるにより、組合及び海員協會は日活會社にその試寫を求め、三月十五日夜海員協會樓上に於いて試寫したる結果、到底吾人海員は其の上映公開を容認し能はざる事を認めたるにより、嚴重なる抗議書を原作者及び日活會社に送ると同時に、組合及び海員協會代表委員は三月十七日東本願寺に於いて光暢師及び日活代表者關西撮影所長池永浩久氏と會見し、種々意見を交換せる結果、東本願寺側及び日活側共に海員團體の希望と誠意とを容れ斷然該映畫を公開上映せざる旨聲明するところあつた。

然るに營利の爲めには德義をも無視する事を敢てする日活會社は此の紳士的約束に背き、四月二十一日に至り突然海員協會に對し、該映畫の内容を部分的に修正して上映したきにより再試寫をした上上映を許されしと提議し來りしも、海員協會